

東交大同窓会会報

第 42 号

平成三十年九月一日

東京交通短期大学同窓会

発行責任者 半沢貞夫
編集長 岩井優太

更なる発展への礎、新校舎完成！



待望の新校舎が本年4月に竣工、地下1階、地上9階建ての校舎には充実した設備が整えられ、新たな教育環境下で授業が進められています。

8階には、学校側のご厚意により同窓会室（高校の校友会室と併用）が設けられ、幹事会等で有意義に活用されています。同窓生の皆さん、ぜひご来校いただきご覧ください。

学園創立九〇周年と短大新校舎完成を祝して

会長 半沢 貞夫



豊昭学園創立
九〇周年並びに
短大新校舎竣工
お祝い申し上げます。

さて、日本の鉄道人教育の礎を『日本国有鉄道百年史』等で顧みますと、鉄道開業前に雇外国人のエドモンド・モレルが伊藤大蔵少補（博文）に宛てた建白書により、電信修技生の養成、工技養成所の開設に始まります。養成所では鉄道局長井上勝自ら教壇に立つなどして、幹部職員の養成が図られます。一般の鉄道従事員養成は、明治三十九年の「鉄道国有法」制定により、教育の統一が必要となり、四十一年国鉄上野営業事務所では笠松慎太郎、亀川徳一先生らに運輸従事員の教育に当たらせ、さらに笠松らは教習所の必要性を鉄道院総裁後藤新平に進言、承認を得て、「運輸従事員教習所」の名のもと授業を開始、亀川先生は教務主任、寄宿舎の寮長として鉄道従事員教育に情熱を傾けます。この教習所の具現化は、その後の鉄道教育の新たな制度へのモデルとなり、四十二年には鉄道院職

員中央・地方教習所が設置されることとなります。

亀川先生の信念は、その後昭和三年に昭和高等鉄道学校、二十七年に東京交通短期大学の創立に引き継がれ九〇年という歴史を刻みました。私が入学した四〇年当時の短大は夜間部の学校で、学友のほとんどが国鉄、都営、営団地下鉄、東武、西武等々いわゆる勤労学生であるが唯に、勤勉で真剣さがみなぎっていました。特に休憩時間に話す各社の情報交換は授業にも勝る楽しく有益な話題で持ち切りとなり、今思うに往時の中央教習所も志を同じにする仲間の学校生活は同様だったのではないかと察します。

午後からの授業となった近年、卒業生の就職先がJR各社、大手私鉄に加え、第三セクター鉄道や中小私鉄など多岐にわたり、地理的にも全国的規模となっています。新校舎で各地からの情報を持ち合い、討議できる機会を提供することこそが同窓会の役目ではないかと思えます。

（元 交通新聞社勤務）

学校法人豊昭学園創立九〇周年を迎えて

学校法人豊昭学園

理事長 飯山 高



平成三〇年七月二日に豊昭学園の創立九〇周年記念式典並びに祝賀会が開催

されました。この日はまた記念講演会も併せて開催され、短大の学生と高校二校の生徒、教職員、更に父母会や同窓会などの支援団体関係者が加わり、元宇宙飛行士毛利衛さんのお話を聴くことが出来ました。

何分にも二三〇〇名を超える大所帯であつたため、都内の主だった会場が借りられず、大宮のソニックスティールホールを使うこととなりました。講演は毛利さん自身が経験した宇宙での生活とそこで行われた実験、そして宇宙から見た地球の姿、これらを踏まえた生徒たちの未来へのメッセージが主題でした。聴き入る学生、生徒たちの姿も立派で、彼らも深く感銘を受けたことと思います。毛利さんからのメッセージを受け取った彼らはいきと、卒業後それぞれの人生の中で未来のために尽くしてくれることでしょう。

このように、若者に未来を託すためのメッセージは講演というイベントにおいてとても分かりやすく、また伝えやすいものですが、未来を託すという目的こそ、建学の精神を持つ学校が大切にしているものです。

九〇年前の豊昭学園の発端である昭和鉄道学校が設立された当時、中心になつて活動していたのは当時の鉄道院中央教習所出身者の駅員、元駅員などの鉄道をこよなく愛する方々であり、鉄道員を目指す若者をサポートすることが目的であつたと言われます。設立して一年余りの学校を引き継いだ二代目の中川正左校長は通信省鉄道局運輸局長、鉄道次官を歴任した鉄道畑の出身であり、以後鉄道教育に情熱を傾けてこられました。

混乱した世情を反映し経営上の危機にあつた中川校長は、経営立て直しのため、同じく鉄道界出身で私学経営に才を発揮していた神田商業学校の理事長亀川徳一氏に協力を求めました。これを機に両校の校長つまり学務の中川正左、経営の亀川徳一という二人体制が出来上がりました。そして両校は昭和十五年に豊島区に移転して以後この地で繁栄を続けているのです。

戦時中の昭和十七年、中川校長は国の

統制によつて鉄道軌道統制会総裁に就任することとなり、昭鉄の理事長だけは続けながらも校長を辞任、亀川氏が両校長を務めることとなりました。

かように歴史に振り回されながらも、両氏が鉄道界出身であり鉄道を愛する人物であつたことから、鉄道教育の火は燃え続け、戦後、他の鉄道学校が次々と消えていく中で二人は更なる高等教育機関の設立を目指しました。そして昭和二十七年、経営上は別々の法人であつた昭鉄学園と豊島学園を合併させて豊昭学園とし、東京交通短期大学を設立したのです。初代学長は中川正左先生でした。

中川、亀川両先生の遺志は平成の今でも継がれており、鉄道界に有為なる人材を育てる日本唯一の交通短期大学、鉄道高校としてこれからもさらに発展させていきたいと願っています。そして、創立九〇周年にあたる今年三月には、六十二年前に短大のために建てられた旧第一校舎、鉄道資料館跡地に再び短大のための新校舎が完成しました。これは東京交通短期大学が更なる発展をするための大きな足掛かりとなるに違いありません。

短大同窓生の皆様には学校が如何にして創られたか知る由のないこともかも知れませんが、学校は熱意と愛情によつて支

えられていることご理解いただき、今後共ご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

学校法人豊昭学園

創立九〇周年記念祝賀会

学園創立九〇周年記念式典が、七月二日、池袋・サンシャイン60のサンシャインクルーズクルーズで開催され、同窓会より川島前会長、半沢会長、湯川副会長、岩井幹事が出席しました。式では、竹田とも子さんの長年の貢献に対し、功労賞が授与されました。



竹田さんを囲む短大関係出席者

平成二十九年事業報告

学長 松岡 弘樹



同窓会の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。

昨年度に引き続き、平成二十九年年度の事業報告をいたします。前回、ご報告しましたが、本学は(財)短期大学基準協会から、平成二十二年に第一評価期間、平成二十八年度に第二評価期間の認証評価を受け、いずれも「適格」の認定を受けました。これを機会として、本学はカリキュラムの内容、教員・事務体制、財務状況等の点検と改善を図り、現在、第三評価期間の認証評価を受けることを想定して準備を行っているところです。

平成二十九年度は、主に下記の事業を実行することにより、本学のさらなる発展に取り組みました。

(一) 短大の新校舎の竣工について

平成二十八年度に着工した新校舎が、平成二十九年年度の工事期間を経て、平成三〇年四月に竣工しました。新校舎はデザイン性に優れ、最新の設備を備えてお

り、本学の教育環境は大幅に改善されました。新校舎は、川越街道沿いの旧一号館の跡地に地下一階、地上九階で建築され、各階には下記の施設・設備が備えられています。

(地下1階) キャリア支援室、非常勤講師控室、応接室1、面談室、教材印刷室、自販機スペース

(1階) 大教室1、事務室

(2階) 大教室2、グリーンテラス

(3階) 大教室3

(4階) 学生ホール、共同部室1・2、リフレッシュテラス

(5階) ゼミ室1・2

(6階) コンピューター室

(7階) 図書館、学生会室

(8階) 共同研究室1・3、同窓会・校友会室

(9階) 学長室、学科長室、研究室1・6、応接室2

(屋上) スカイテラス

特に屋上のスカイテラスは眺望に優れ、天気の良い日には富士山が臨めます。また、新校舎には、8階に同窓会室が設置されており、同窓会員の皆様の交流の場として活用して頂きたいと存じます。

(二) 学校法人豊昭学園創立九〇周年記念事業について

平成二十九年より準備を行ってきた「学校法人豊昭学園創立九〇周年記念講演会、式典・祝賀会」が平成三〇年七月二日に行われました。記念講演会では、宇宙飛行士の毛利衛氏を講師としてお招きし、「宇宙からの贈りもの〜我々は何故挑戦し続けるのか〜」というテーマで、大宮ソニックシティ大ホールで開催されました。その後、池袋のサンシャイン60内のサンシャインクルーズクルーズに場所を移して、記念式典・祝賀会が挙行されました。式典・祝賀会には、同窓会より、川島一郎前会長、半沢貞夫会長、湯川信久副会長、岩井優太幹事の四名の方々にご臨席いただきました。式典では、学園への功労者の方々への表彰が行われ、本学からは、竹田とも子氏の長年に渡る本学への貢献に対して敬意を表し、感謝状と記念品が贈呈されました。

本学も四年後に、創立七〇周年を迎えますが、新校舎の竣工を機会として、新たな一歩を踏み出す所存です。

(三) 安定的な財政構造を構築する

本学の財政状況は、平成二十七年度までは一定数の学生を確保してきたことか

ら、安定的に推移し、事業収支差額は黒字を維持してきました。少子化の進行により、平成二十八年度は入学者数の減少によって事業収入が減少しましたが、平成二十九年度は、入学者の確保を本学が取り組むべき最優先事項として施策を講じた結果、平成三〇年度の入学者は本学が受け入れ可能な最大数である一〇三名の入学者を確保することが出来ました。

一定の入学者の確保は、本学の存続の基盤となるものです。今後も不断の見直しを行い、学生の確保のための施策を講じていく所存です。

本学をはじめとして全国の短期大学は、少子化の進行、専門職大学・専門職短期大学制度の創設等により厳しい状況を迎えております。我々教職員一同は、伝統ある本学の灯を絶やすことのないよう全力を尽くす所存ですが、今後も引き続き短大への同窓会員の皆様の変わらぬご尽力を賜りますようお願い申し上げます。



平成二十九年学事報告

教授 栗田 善吉

東京交通短期
大学・カリキュ
ラム委員長、栗
田善吉と申しま
す。よろしくお

願いたします。短期大学の平成二十九年度の学事について簡単に報告いたします。

一・新・退任教職員について

【退任教員について】

平成二十九年度をもって、以下の先生方が退任されました。

(専任教員) 平野琢専任講師、天野美穂子専任講師
(非常勤教員) 亀川雅人講師、古井恒講師、白戸健講師

ご退任された先生方の、短大への長年に渡るご尽力に感謝すると共に、今後の益々のご活躍をお祈りさせていただきます。

【新任教員について】

平成三〇年度より、以下の先生方が新たに赴任されることになりました。

(専任教員) 水野有希専任講師、小宮全専任講師

(非常勤教員) 谷川寿郎講師、洪 京和講師(前期のみ)、天野美穂子講師(後期のみ)、田中美和講師、高柳直弥講師、笠井文雄講師(後期のみ)

各先生方の専門分野で培われたご経験を生かされてのご活躍を期待したいと思います。

二・学校行事について

平成二十九年度の学校行事に関しては、前期は、(四月)入学式・一年次および二年次オリエンテーション、第一回体験入学会、(五月)第二回、第三回体験入学会、学外レクリエーション(シチズンプラザにてボウリング大会)、(六月)第四回体験入学会、第一回オープンキャンパス、(七月)第五回、第六回体験入学会、(八月)前期定期試験、第二回、第三回オープンキャンパスの各行事を実施しました。

後期は、(九月)第七回、第八回体験入学会、後期ガイダンス、東交祭、(十月)第九回体験入学会、(十一月)交通見学会(伊豆急行車庫見学会)、第十回体験入学会、(十二月)第十一回体験入学会、専門ゼミ発表会・説明会、(二月)第十二回体

験入学会、後期定期試験、(二月)第十三回体験入学会の各行事を実施し、三月には、第十四回体験入学会を開催し、十六日(金)に、池袋メトロポリタンにて、卒業式を挙行いたしました。

例年通り、入学式と卒業式には、同窓会会長の半沢貞夫先生にご臨席いただき、ご祝辞を賜りました。東交祭には、同窓会ブースを設け、学生・来校者との交流の場を提供していただきました。同窓会役員の方々の学校行事へのご協力を感じいたします。

三・時間割について

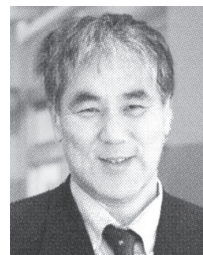
平成三十年度の時間割と特別教養講座カリキュラムが別表のように決まりました。特別教養講座につきましては、引き続き、後期に、前同窓会会長の川島一郎先生、同窓会会長の半沢貞夫先生、同窓会副会長の武田浩一先生の三人の先生に講義をご依頼しております。

例年ご案内いたしておりますが、特別教養講座は公開講座となっております。本年四月に竣工致しました短大新校舎で初となります母校での講義をお聞きになつて、学生時代を思い出していただくのは如何でしょうか。同窓会会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

平成二十九年度就職状況及び

平成三〇年度就職支援

キャリア支援室 栗原 圭二



同窓会の皆さま、本学キャリア支援室でお世話になっております栗原と申します。

同窓会の皆さまには、就職支援の一環としての出張講義や後輩へのアドバイス等におきまして、大変お世話になっております。

平成二十九年度就職状況についてですが、卒業生七〇名に対して就職希望者六十二名であり、五十九名が就職先を確定し卒業いたしました。進学希望は二名であり、うち一名が四年制大学へ編入しております。

平成二十九年度は、JR6社に十名、東武グループに四名、京王電鉄に二名、東京都交通局協力会に十名など鉄道企業就職が三十七名となりました。青い森鉄道や京都市営地下鉄等の地方の鉄道会社にも入社しております。今年度以降も鉄道会社に入りたい学生の思いを大事にしていきたいと思っております。

平成三十年度は、昨年に引き続き、就

職活動スタートについては三月、選考開始は六月となっております。しかしながら昨年と比較しても実質的な選考試験や内々定の時期がさらに早まったと感じております。八月一日現在、鉄道企業の内々定者は三〇名となっております。今年度は久しぶりに、えちごトキめき鉄道の内々定者も出ています。選考中の鉄道企業やこれから選考の鉄道企業もまだまだありますので、引き続き受験中または受験を予定している学生も多くおります。その他の交通関連企業（バス会社等）への内々定者が八名、一般企業の内々定者は五名となっております。

今年度は昨年度に引き続きキャリア系授業をさらに活用させていきます。なかでも、企業へのインターンシップを含む科目「学外実習」においては、東武鉄道グループ・西武鉄道練馬駅のインターンシップに加えて、平成二十九年度より横浜市交通局にもご協力頂いてインターンシップを実施しているところです。鉄道企業以外にも東急トランセ・国際興業のバス会社二社においてもインターンシップを実施していただいております。また、「学外実習」のインターンシップ事前講習においては、小田急電鉄の方に協力

を頂いております。来年度以降、インターンシップにご協力頂ける企業の方がいらつしやいましたら、どうぞよろしくお願いいたします。

同窓会の皆様とは、就職支援の観点からもぜひ後輩に対していろいろな経験談をお話しいただけると幸いに思っています。今年度は九月後半までに大手企業の採用が決まっていくと思いますので、東交祭などにお越しの際はぜひキャリア支援室にお立ち寄り、進路についての疑問質問をお気軽にしてください。また、ぜひ求人があればお声がけいただければ幸いです。

最後に、平成二十九年度の就職・進学状況について簡単に報告させていただきます。平成三〇年三月卒業生七〇名中、交通関連企業へ四十八名（昨年同時期四十七名）、一般企業十一名（昨年同時期二〇名）、進学一名（昨年同時期六名）という状況でした。（四月三〇日現在）

鉄道関連の就職先は次の通りです。

【鉄道関連企業別内定者数】

東日本旅客鉄道	2名（昨年2名）
東海旅客鉄道	1名（昨年無）
西日本旅客鉄道	1名（昨年1名）
北海道旅客鉄道	2名（昨年2名）
九州旅客鉄道	2名（昨年無）
日本貨物鉄道	2名（昨年1名）

東京地下鉄	1名（昨年2名）
横浜市交通局	1名（昨年無）
東武ステーションサービス	4名（昨年5名）

京王電鉄	2名（昨年無）
------	---------

銚子電気鉄道	1名（昨年無）
--------	---------

青い森鉄道	1名（昨年無）
-------	---------

京都丹後鉄道	1名（昨年無）
--------	---------

JR東日本ステーションサービス	3名（昨年無）
-----------------	---------

東京都交通局協力会	10名（昨年5名）
-----------	-----------

JR東日本運輸サービス	2名（昨年5名）
-------------	----------

東日本環境アクセス	1名（昨年無）
-----------	---------

平成三〇年度入試報告

入試委員長 高橋 真悟



平成三〇年度入学（平成二十九年度実施）の入試は、志願者数一四〇五名、合格者数一〇七名、入学者数一〇三名で、定員の八〇名を二十三名上回り、現在受け入れ可能な人数の上限（定員の二・三倍未満）を確保することができました。昨

年度と比べると、志願者は四〇名の増加、入学者は十名の増加となり、定員割れした一昨年度と比べると、志願者は七十一名の増加、入学者は三十四名の増加となりました。皆さまのご協力に感謝申し上げます。

昨年度に引き続き、志願者と入学者の増加を実現できた要因は複数考えられますが、とくに以下の二つが大きな要因だと考えられます。第一に、一昨年度から体験入学会の回数を年間七回から十四回に増やすと同時に、予約制から予約なしにして、参加しやすい状況を整えました。さらに、オープンキャンパスを含めたイベントの参加が二回目以上の方に対して、志望理由書や小論文の添削指導および面接指導を行うなどの特典をつけました。

実際に、私自身も志望理由書の添削指導を数多く担当し、何度も足を運んでくれた受験生の存在が印象的でした。これらの結果として、平成二十九年度のオープンキャンパスと体験入学会を合わせた参加者数は、学生参加者が三五七名から四六五名へ、そして参加者合計は五六七名から七三九名へと増加しました。定員割れした一昨年度と比較すると、学生参加者が三〇九名から四六五名へ、そして参加者合計が四九〇名から七三九名へと

大幅に増加しました。この増加が、入試の志願者増加に結び付いたと考えられます。

第二の要因として、新校舎の建設が挙げられます。今年度四月に竣工した新校舎の存在をイベントやホームページで宣伝することができた点は、広報戦略上、プラス効果になったと思います。残念ながら、期待した女子学生の増加には今のところ結びついていませんが、イベント参加者の新校舎への評価や期待は高いものが感じられます。現在、新校舎をアピールする新しいホームページも作成中です。これらは、入試委員会と広報委員会、さらにIT委員会が連携して対策を講じてきた結果だと思えます。今年度はこの連携をより強化していく予定です。以上二つが、志願者と入学者の増加を実現できた大きな要因だと考えます。

現在、日本の短期大学が置かれている状況を確認すると、短期大学の学校数および学生数は、平成五年から平成八年をピークとして減少し続けています。そして、十八歳人口が減少している傾向を反映して、全国の短期大学で定員割れが深刻化しています。日本私立学校振興・共済事業団の調べによると、平成二十九年度の短期大学における定員割れは二〇四

校で、短期大学全体(三〇四校)に占める割合は六十七・一%となっており、短期大学の入学者確保は非常に厳しい状況に置かれているといえます。

本学は平成三〇年度七月現在、体験入学会とオープンキャンパスの参加者合計が昨年度を若干下回っております。同窓会のみなさまにおかれましては、本学に興味のある方がいらっしやいましたら、ぜひ新校舎での体験入学会やオープンキャンパスへのご参加をすすめていただけると幸いです。皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。



短大新校舎 8F 「同窓会室」について

第四十一期生 武田 浩一



この度新校舎完成にあたり、短大のご厚意により九階建ての建物の八階に

「同窓会室」を一室設けていただきました。約十畳程の部屋で、ロッカーや机などを設置していただきました。

八階という事もあり、窓からの見晴らしもよく、すぐそばの首都高五号線や遠くにはJR池袋運輸区もうかがえます。

備品等については順次揃えております。個人的に教材ともなりうる鉄道部品を置いております。先日、同窓会生の職場の先輩よりレールを頂戴しました。

後述しておりますが、同窓会室については幹事に申請いただければ使用することができ、今後は現役生との親密なコミュニケーションを図れる相談会を、年に数日設ける予定を立てております。つきましては、同窓会生で活動にご理解いただける方にご協力をお願いいたします。

同窓会室は豊昭学園との共同使用となっており、そのあたりは各校の交流に

もつながると思います。どうぞ今後の同窓会活動にお力添えのほどをお願いします。



(1 年次)				平成 30 (2018) 年度時間割				(2 年次)
1 時限	2 時限	3 時限	4 時限		1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
13:10 ~ 14:40	14:50 ~ 16:20	16:30 ~ 18:00	18:10 ~ 19:40		13:10 ~ 14:40	14:50 ~ 16:20	16:30 ~ 18:00	18:10 ~ 19:40
経営学A/B (谷川)大教室 1	基礎ゼミⅠ (藤井)大教室 1	実務基礎 能力論ⅠA/B (藤井)大教室 1	交通概論A/B (栗田)大教室 1	月		コンピュータ 実習ⅠA/B (植村) コンピュータ室	交通技術論(前) (前橋)大教室 3	交通判例分析ゼミ (松岡) 共同研究室 1
	基礎ゼミⅡ (濱)大教室 2	実務基礎 能力論ⅡA/B (水野)大教室 2					鉄道システム論(後) (前橋)大教室 3	経営戦略論ゼミ (高橋) 共同研究室 2
	基礎ゼミⅢ (水野)大教室 3	実務基礎 能力論ⅢA/B (小宮)ゼミ室 1						鉄道史ゼミ (濱) 共同研究室 3
	基礎ゼミⅣ (小宮)ゼミ室 1	実務基礎 能力論ⅣA/B (田邊)ゼミ室 2						
	基礎ゼミⅤ (田邊)ゼミ室 2							
観光関係法規① (前集) (手塚)大教室 1	政治経済(前) (福山)大教室 1	文章表現 技術ⅠA/B (新島)大教室 1	文章表現技術Ⅱ A/B (新島)大教室 1	火	中国語A/B (山口)ゼミ室 1	コンピュータ 実習ⅢA/B (小宮) コンピュータ室	鉄道運転論(前) (藤原)大教室 3	自動車交通論(前) (湯田)大教室 3
コンピュータ 基礎(後) (小宮) コンピュータ室	現代社会論(後) (福山)大教室 1	環境科学概論A/B (中村)ゼミ室 1	保健体育理論A/B (藤城)ゼミ室 1				観光事業論(前) (太田)大教室 2	
	文学A/B (山口)大教室 2						物的流通論(前) (洪)ゼミ室 2	
							ホスピタリティ 論(後) (湯田)大教室 3	
マーケティング 論(前) (井戸)大教室 1	法学A/B (松岡)大教室 1	観光地理(前) (有馬)大教室 1	経済学A/B (水野) コンピュータ室	水	コンピュータ 実習ⅢA/B (水野) コンピュータ室	経営組織論(前) (田中)大教室 3	交通英語A/B (大槻)大教室 3	
鉄道基礎(後) (中島)大教室 2	鉄道基礎(後) (中島)大教室 2	検定英語 (小池)大教室 2	心理学A/B (兼高)大教室 1			経営戦略論(後) (田中)大教室 3		
ビジネスマナー (前) (夏城)大教室 1	自己表現法(前) (田邊)大教室 1	情報システム論(前) (植村)大教室 1	基礎英語 (町田)大教室 1	木	コンピュータ 実習ⅣA/B (植村) コンピュータ室	交通経済学(前) (栗田)大教室 3	キャリア 実践(前) (田邊)大教室 3	都市・地域交通 論ゼミ (栗田) 共同研究室 1
コミュニケーション論(後) (天野)大教室 1	企業研究 (後集)① (田邊)大教室 1	企業研究 (後集)② (田邊)大教室 1	体育実技A/B (早川)体育館			航空論(後) (栗田)大教室 3	世界の鉄道研究 (後) (櫻井)大教室 3	
哲学A/B (篠原)大教室 2								
観光関係法規② (前集) (手塚)大教室 1	旅行実務論(前) (手塚)大教室 1	経営学A/B (高橋)大教室 1	歴史学A/B (濱)大教室 2	金	キャリア 情報論(前) (栗原)大教室 3	交通政策論(前) (藤井)大教室 3	交通史(前) (濱)大教室 3	交通論ゼミ (藤井) 共同研究室 1
キャリア 形成論(後) (栗原)大教室 1	交通事業論(後) (藤井)大教室 1	自然科学概論 A/B (佐藤)大教室 2			観光プランニン グ実践(後) (手塚)大教室 3	経済学史(後) (高橋)大教室 3	鉄道史(後) (濱)大教室 3	
特別教養講座 A/B (高橋)大教室 1	観光学概論A/B (高柳)大教室 3	キャリア デザイン(前) (栗原)大教室 3	補講	土	ビジネス倫理(前) (大田)大教室 2	簿記論(前) (大田)大教室 2		補講
		コンピュータ 基礎(後) (植村) コンピュータ室			交通需要論(後) (栗田)大教室 2	交通環境論(後) (笠井)大教室 2	海運論(後) (栗田)大教室 2	

平成30(2018)年度 特別教養講座日程表

前期(土) 13:10～14:40

開講日	講演者		テーマ	講義要綱
2018年4月14日	岩武 光宏	近現代史研究家	近現代史から紡ぐ現実形成力	156
2018年4月21日	石村 誠人	駅・街のデザインとパブリック アート研究会代表世話人	これからの駅舎建築とパブリックアート 管理の在り方を通じて学ぶべきこと	156
2018年4月28日	大坂 直樹	株式会社東洋経済新聞社記者	鉄道を通じて経済、社会を学ぶ	157
2018年5月12日	齋藤 順治	株式会社ＪＲ東日本ステーション サービス相談役	発足 30 年を迎えたＪＲ東日本グループ	157
2018年5月19日	佐藤 美知男	公益財団法人交通協力会鉄道史 資料調査センター研究員	昭和の切符と鉄道史	158
2018年5月26日	平田 一彦	株式会社東武カードビジネス 常勤監査役	鉄道事業を巡る経営環境の変化について	158
2018年6月 2日	井上 治	拓殖大学政経学部教授・学部長	インドネシアの鉄道事情	159
2018年6月 9日	亀山 直人	日本貨物鉄道株式会社 関東支社総務部部長	鉄道貨物輸送の現状	159
2018年6月16日	鹿住 良人	株式会社かすみ交通代表取締役	地域社会におけるタクシーの役割	159
2018年6月23日	前田 忍	サンクスループ代表	鉄道事業のトレンド	159
2018年6月30日	石上 七緒	松蔭大学教育開発センター長 コミュニケーション文化学部長	古代の交通と信仰	160
2018年7月 7日	荻原 俊夫	元東京急行電鉄株式会社	鉄道員としての毎日	160
2018年7月14日	広田 健助	株式会社全日警 人事部人材採用部長	「北アメリカ大陸広域高速鉄道網建設 30 年計画」と「TPP11」の将来像について	161
2018年7月21日	阿部 等	株式会社ライトレール 代表取締役社長	鉄道の未来は明るい	161
2018年7月28日		予 備 日		

後期(土) 13:10～14:40

開講日	講演者		テーマ	講義要綱
2018年 9月22日	武田 浩一	本学同窓会副会長	鉄道員が負うリスク	162
2018年 9月29日	尾崎 正明	東京急行電鉄株式会社 内部統制室専任主幹	鉄道運転士に求められるもの	163
2018年10月 6日	半沢 貞夫	本学同窓会会長・元交通新聞社出版編集部長	鉄道 150 年 成立と発展に尽くした人々	163
2018年10月13日	平柳 聡	造景師(情景モデラー)	模型で表現する生活感のあつ鉄道の魅力	164
2018年10月20日	花上 嘉成	一般財団法人東武博物館理事 名誉館長	これからの鉄道の在り方	164
2018年10月27日	岡本 久	本学元学科長・本学名誉教授	高齢化社会における交通のあり方	164
2018年11月10日	川島 一郎	東日本鉄道OB会 東京地方本部専務理事	元気な J R 東日本グループ	165
2018年11月17日	大島 功	株式会社ジェイアール東日本 都市開発総務部次長	J R 東日本の現状と企業が求める社会人について	165
2018年11月24日	成瀬 敏郎	東京情報大学名誉教授	法的リスク・マネジメントの世界	166
2018年12月 1日	田中 宏司	本学元学長・本学名誉教授	コンプライアンス経営と C S R 経営 ー企業人になるための心構えー	166
2018年12月 8日	吉田 一宏	東武鉄道株式会社 資産管理部課長	鉄道業における資産活用について	167
2018年12月15日	大嶋 敦	NHK 放送文化研究所研究主幹	テレビ番組制作者からみた J R 福知山線 脱線事故の教訓	167
2019年 1月12日	平野 琢	九州大学大学院経済学部 専任講師	リスク学から見た鉄道の安全	168
2019年 1月19日	米山 淳一	公営社団法人横浜歴史資産調査会 常務理事・事務局長	鉄道遺産を生かしたまちづくりと 地域活性化	168
2019年 1月26日		予 備 日		

(敬称略)

【会員解放区】

旧校舎での思い出と仲間たち、

そして今の私

第四十四回生 大村 晋也



新校舎竣工おめでとうございます。

私は、平成七年度に本校入学と同時に鉄道研究部に入部、卒業までの二年間多くの仲間にも恵まれ、とても楽しい日々を送ることが出来ました。

当時、部室が丸ノ内線車両の後方にあったプレハブ小屋の二階にあり、部活動の中で知見を広め様々な研究？をしたり、近所にあつた丸十ベーカーリーで買い込んだペヤングソース焼きそばを食べながら、仲間たちと夏休みの旅行計画やお互いのバイトの苦労話やバカ話で過ごしたことなど、思い出は多すぎて語り尽くせません。

卒業して約二〇年経った今も、この濃密な二年間で培った仲間との絆は絶えることなく、時々集まっては昔話を肴に語り合っています。

新校舎には同窓会室が設けられたとのこと、是非とも足を運んでみたいと思います。

ます。

さて私は現在、東日本旅客鉄道株式会社（以下、JR東日本）千葉支社内房線の君津駅で助役として働いております。

平成九年四月、JR東日本に入社し、総武線幕張本郷駅が私の鉄道人生のスタートです。その後、習志野運輸区で首都圏を東西に貫く総武緩行線や総武快速線で車掌を一年、運転士は十二年、安全安定輸送の一翼を担ってきましたが、運転士としての経験を活かした弊社の制度の一環として、津田沼駅での輸送業務に携わりました。運転士に戻ることもできたのですが、なぜ運転士に戻らず駅で助役をするようになったのかは、運転士経験のあつた当時の津田沼駅長の言葉が私の鉄道人生としての在り方を変えるターニングポイントとなりました。「これからは、あなたのような社員がこの会社を担っていかねばならない時代だ。あなたの車掌や運転士の経験や知識をもとに、将来乗務員を目指す若手社員への育成をやってみないか、様々な経験をすることで乗務員だけの鉄道人生ではなく、幅広い視野を持ちこれからの鉄道人生を歩んでほしい」と駅長から声を掛けられ、若手社員の育成を任せられ、これをきっかけに、社員の育成や職場マネジメントを

行っ楽しさが芽生えてきました。

これまで運転業務が中心で、十数年も営業職場を離れていたブランクから、苦労した経験や上司の叱責もありましたが、それ以上に若手社員を育成することにより甲斐を感じ、平成二十八年七月に君津駅助役を拝命しました。

訪日外国人が増加する中、君津駅はマザー牧場等観光地の玄関口として、多くの外国人のお客様がご利用になります。JR東日本においてもグローバル化が急速に進む中、おもてなしを実践し、外国人旅行者に感動を与えられるよう目指しています。若手社員の育成にも多言語案内について勉強会を行い、駅全体の接客スキルのレベルアップを目指しています。

目まぐるしく変化する社会の中で、安全については不変の努力を積み重ねなければなりません。安全以外での変化に柔軟に対応していかなければなりません。その変化に対応出来る社員の育成がこれから私に課せられた使命です。

交通短大出身であることを誇りに、これからも日々業務に邁進してまいります。（東日本旅客鉄道千葉支社 君津駅助役）

いざ「乗り鉄」で、

静寂の「道後山駅」へ

第四十五回生 竹下 光



交通短大を卒業後、JR東日本に入社して二〇年の月日が経ちました。入社

三年後の平成十三年に憧れの運転士として、常磐線上野〜勝田間に乗務していましたが、会社施策で昨年二月に転勤となり、現在は土浦駅で輸送の任務に就いています。

交通短大の旧校舎で勉学に励み、友と共に楽しい時間を過ごした日々が昨日のことのように思います。

近年の鉄道ブームで「乗り鉄」、「撮り鉄」、「音鉄」等々、いろいろな鉄道の楽しみ方が話題になっています。また、お酒を飲みながらローカル線に乗って景色を楽しむ「飲み鉄」もあります。こう言う私は「乗り鉄・飲み鉄」派で、それも一日数本しか列車が停まらない秘境駅に行くことが好きで、中でも一番のお気に入り、芸備線の「道後山駅」です。

新幹線から特急「やくも」に乗り継ぎ、新見で一泊、翌日新見駅を早朝五時十八

分発の芸備線備後落合行の快速列車に揺られること約一時間で「道後山駅」に着。広島中国山地にあるこの駅は、静かで周囲には人気もなく、朝の清々しさも加わって何とも言えない気持ちの良さ、そして停まる列車が一日わずか三往復！この秘境感がたまらなくいいのです。

しかし、先日発生した西日本豪雨災害の影響で、芸備線はじめ中国地区の多くの鉄道路線も被災し、復旧までに暫く時間がかかると言います。被災地の日でも早い復旧復興を祈るとともに、被災した路線の早期復旧を願うばかりです。

今日の鉄道ブームで、観光、イベント列車が日本各地で走り、鉄道を利用する方が多くいます。しかし、多くのローカル線は過疎化による利用客の減少で赤字、廃線の危機に晒されています。一つでも多くローカル線を「乗り鉄・飲み鉄」して、廃線危機を脱することに貢献出来ればと思いつつ旅を続けます。

(東日本旅客鉄道 土浦駅勤務)



平成二十九年

「天竜浜名湖鉄道貸切列車の旅」開催

副会長・貸切列車実行委員長

第四十一回生 湯川 信久



平成二十九年
十月二十八日
(土) 十一時十五分、軽い警笛とともに「天竜

浜名湖鉄道貸切列車」は、掛川駅を新所原駅に向けて発車しました。

貸切列車の旅は、試行開催となった富士急行に続き、第一回の伊豆急行、第二回の箱根登山鉄道に続き、第三回目となった今回は、天竜浜名湖鉄道で実施しました。

当日はあいにくの雨でしたが、同窓会生とその家族、そして短大講師の前橋先生を含めた総勢三十一名という多数の皆様にご参加いただきました。

掛川駅を定刻に発車した列車は、のどかな茶畑の中をのんびり走り、天竜二俣駅を目指します。

車内では、和気藹々とした雰囲気の中、天竜浜名湖鉄道に運転士として勤務する五〇回生の青天目篤君により、「天竜浜名湖鉄道株式会社の概要」を紹介していた



和気藹々車内風景



遠州森駅で記念撮影



国の登録有形文化財である天竜二俣駅の転車台



天竜浜名湖鉄道の概要を説明する青天目さん

だき、続いて伊豆急行株式会社に勤務さ

れている五十六回生の小澤梓さんに「静岡県私鉄各社の誘客事例」と題し映像とともに学術的に紹介いただきました。

途中の駅で上り列車との交換をする際には、青天目君から「上り列車を運転している運転士も短大卒業生です！」と車内放送があり、全員が拍手でエールを送りました。

列車は、約一時間で天竜二俣に到着。そこで駅に併設する鉄道歴史館及び転車台の見学をさせていただき、特に転車台では実際の車両を載せて回転する様を見学することができました。

約一時間の天竜二俣駅滞在后、ふたたび列車はのんびり終点を目指します。

車内では、参加者それぞれの思い出話と鉄道談義に花を咲かせ話が尽きません。

しかし楽しい時間はあっという間に過ぎてしまうもの。終点の新所原駅に定刻

十四時三十七分に到着しました。

大変楽しい時間を皆様と共有できたことは感謝に堪えません。

ご参加された皆様、そしてご協力いただきました天竜浜名湖鉄道株式会社様に心より御礼申し上げます。

ありがとうございました。

「地方鉄道の生き残り策」の誘客事例

第五十六回卒 小澤 梓



平成二十九年十月二十八日に行われました天竜浜名湖鉄道貸切列車の際、「地方

鉄道」の生き残り策」と題しまして、私の勤務する伊豆急行をはじめとする静岡県私鉄各社で実施されている誘客事例をご紹介しますいただきました。

一つめは観光列車の運行です。伊豆急行では、東急電鉄と共同して平成二十九年七月より観光列車「ザ・ロイヤルエクスプレス」を運行しております。「ザ・ロイヤルエクスプレス」は横浜〜伊豆急

下田間を運行して

おり、デザインは九州の観光列車「ななつ星」

などを手掛けた水戸岡

鋭治氏が行いました。

観光列車の例として

は、他にも岳南電車の「夜景電車」が挙げられます。平成二十六年

七月、鉄道本体として

は日本初の「日本夜景

遺産」に認定されたことを活かし、沿線

に散りばめられた昭和の駅舎・車両・静寂な夜景・暗闇に包まれた工場の灯を楽しむことができる「夜景電車」を運行しています。

二つめは団体ツアー誘致です。これはバスツアーの一部に観光列車乗車体験を組み込んでいただき、お客様が鉄道の旅を楽しんでいる間、バスを下車駅へ回送

しお客様をピックアップするというものです。伊豆急行では、景色のいい東伊豆海岸線を観光列車「リゾート21」に

乗車するという形で団体を受け入れており、同じような事例では大井川鉄道のSLや

きかんしゃトーマス号が挙げられます。

三つめはアニメツーリズムです。伊豆箱根鉄道では静岡県沼津市を舞台とする



静岡県の私鉄各社の誘客事例を紹介する小澤さん

人気アニメ「ラブライブ！サンシャイン!!」とコラボし、ラッピング電車、タクシー、バスの運行を行っています。

四つめはインバウンド誘致です。伊豆急行では台湾、中国、香港を中心に外国人観光客の誘致を行っています。誘客方法としては海外旅行博出展や海外メディア招聘での情報発信や、団体ツアー誘致などです。

沿線人口が減少するなか、沿線外から旅客を増やすため静岡県私鉄で行われている施策についてご紹介させていただきました。沿線の開発を行い、定住人口を増やしている大都市近郊の鉄道会社とは少し違った方法で、地方鉄道は生き残るための施策を行っていることを知っていただけたら幸いです。



お知らせ

同窓会事務室の使用について

同窓会では、同窓会室の使用について、次の通り使用規程を定めました。規程を遵守のうえ有効に利用して下さい。

東京交通短期大学同窓会事務室使用規程

1, 事務局使用規定を制定し、学校並びに校友会の方針に則り管理運営を行う。

2, 事務局に管理責任者として事務局長、担当幹事を置く。

3, 事務局の使用は、同窓会幹事会並びに会報編集会議等を原則とする。

4, 会員が事務局を使用する場合は、使用者は事務局長または担当幹事に使用目的を申し出て、事務局長または担当幹事が学校事務局にその旨連絡を行う。

5, 事務局の利用時間は十二時より二〇時とする。

6, 事務局内は常に整理整頓に努め、喫煙並びに飲酒を禁ずる。

*事務局長は会長、担当幹事は武田副会長が当たります。申し込みは同窓会 E メールでお願いいたします

また、学校のご厚意により同窓生の学

校図書館の利用が出来るようになりました。

利用につきましては、事務局使用と同じく事務局長か担当幹事に申し出ていただき、事務局長または担当幹事が学校事務局を通して図書館に連絡、使用許可を取ります。

在校生の相談受付について

同窓会では、在校生の就職活動に当たり、相談窓口を設けアドバイスをを行うこととしました。鉄道業務等により学生の訪問に応じることが難しいことから、スケジュールを組んで、同窓会事務局で開催することとしました。現役、OB問わず可能な方のご協力をお願いいたします。

住所確認のお願い

当校卒業者数は四千三百人を超えました。しかし、約半数の方は住所が不明となり、会報の発送ができません。今回調査用のはがきを同封いたしました。必要事項をご記入のうえ、恐縮ですが六十二円切手を貼ってご投函いただくか同窓会 E メール：toukouob@gmail.com宛へ回答をお願いいたします。

平成二十九年年度 東京交通短期大学同窓会 総会開催

平成二十九年九月十六日(土) 二十九年年度の総会を旧校舎に於いて会員二十一名の出席で開催いたしました。会には、松岡学長、高橋学科長にご列席賜り、二十九年年度の会員の現状、活動報告、会計報告が行われ了承されました。

また、総会終了後場所を池袋西口の地球飯店に移し、会員懇親会を開催、出席者が各々の現況等を紹介するなど親睦を深めました。

三十年度総会は、新校舎での開催となります。見学方々多くの同窓生のご出席をお願いします。

なお、東交祭の開催に合わせ、学内に於いて同窓生有志による「同窓会コーナー」を設け、「鉄道員の1日」などの講演や鉄道グッズの配布など行いました。今年も同様に新校舎で開催いたします。趣向を凝らしたイベントを計画しております。ぜひご家族ご同伴でお出かけ下さい。



会 計 報 告 書 (平成 29 年度)

(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

平成 30 年 4 月 1 日
東京交通短期大学 同窓会

収 入 の 部				支 出 の 部			
項 目	区分	金 額	摘 要	項 目	区分	金 額	摘 要
繰越金	A	576,879 円		集会費	イ	142,568 円	東交祭・幹事会懇親会 イベント列車
会費	B	435,000 円	5,000 円×87 名	事務費	ロ	0 円	同窓会長賞賞状は在庫使用
臨時会費	C	158,500 円	東交祭・幹事会懇親会 イベント列車	通信費	ハ	478,899 円	会報 41 号発行・発送 東交祭開催案内等
寄付金	D	36,402 円	会員 4 名ほかより	渉外費	ニ	32,606 円	会長賞記念品
雑収入	E	6 円	利息	会議費	ホ	85,745 円	幹事打合せ等
				雑費	ヘ	7,144 円	東交祭用雑貨
				繰越金	ト	459,825 円	
収入計		1,206,787 円		支出計		1,206,787 円	

この報告書は検討の結果、その収支は正当かつ妥当であることを認めます。

平成 30 年 4 月 1 日 会計監査 堀 丈夫[㊞]、会計監査 村越 輝夫[㊞]

平成三十年度総会並びに東交祭・ 同窓会コーナーの設置について

平成三十年度東京交通短期大学同窓会総会を、九月十五日(土)十六時三十分より新校舎八階で開催いたします。なお続いて十七時三十分より池袋駅西口・地球飯店に於きまして懇親会を行います。お手数ですが、Eメールまたは同封のはがきに出欠をご記入いただき九月十一日までにご投函下さい。

また、九月十五日(土)、十六日(日)学生会主催の東交祭が開催されます。同窓会も有志により「同窓会コーナー」を設け、現場第一線で働く同窓生による「鉄道社員の日」と題する話や鉄道グッズの配布などのほか、十五日(土)十五時より落語家による寄席を予定しています。

「銚子電鉄貸切列車の旅」(予定)

平成三十年十月七日(日)、平成三十年度「銚子電鉄貸切列車の旅」の開催を企画しています。

第四回となる今回の貸切列車の旅は、「ぬれせんべい」や「まずい棒」などユニークな営業を展開する銚子電鉄での企画で、同窓会会員の親睦を目的に、銚子電鉄の現状の紹介や、参加の他鉄道会社社員の事例紹介など情報交換も予定しています。

企画内容、お申し込み方法等は左記のメールアドレスにお問い合わせください。
E-mail: toukouob.event.kasikiri@gmail.com

お知らせ

一、会報バックナンバー

インターネットより、<http://www.hosho.ac.jp/toukou/08/index.html> にアクセスしていただき、会報ボタンをクリックすると、第二十二号から第三十二号まで閲覧できます。

二、同窓会事務局運営スタッフ募集

同窓会で行う行事や同窓会報およびホームページ作成をお手伝いいただける方を随時募集しておりますので、同窓会事務局宛てに書面もしくは電子メールでお問い合わせください。

三、原稿執筆案内

①題 材 自由

②執筆要領

・文章の場合、市販の原稿用紙か電子データの入ったメディアを郵送、または電子メールにて、八〇〇字程度でお願いします。

・写真/イラスト/カットの場合、そのまま版下とします。電子データでも結構です。いずれもタイトル、卒回、氏名、勤務先を明記し、写真も添付してください。

③原稿締切 毎年一月末日

④送付先 〒一七〇〇〇一一

東京都豊島区池袋本町二一五十五

東京交通短期大学 同窓会事務局宛

E-mail: toukouOB@gmail.com

編集後記

▼新校舎竣工式、学園創立九十周年とお祝いの続いた年度初、同窓会事務局も会報編集、会員名簿

の確認、同窓会コーナーの準備、貸切列車の打ち合わせ等々有意義な活用で盛り上がっています。会員の皆さんもぜひ新校舎をご覧いただき、運営スタッフとしてご協力いただければ幸いです。(H)

新校舎紹介



正面玄関



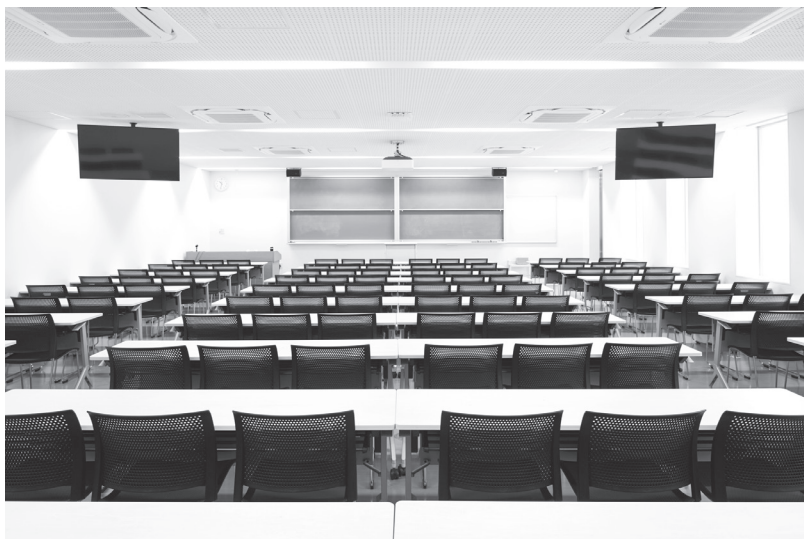
新校舎全景 コンクリート仕上げの壁面には、金属パネルのレイアウトデザインが四季の移ろいを醸し出す



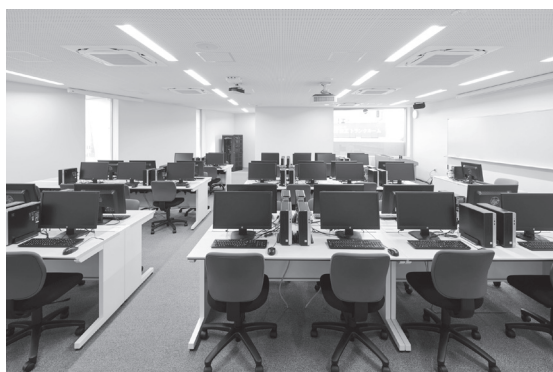
エントランスホールで松岡学長を囲み記念撮影



竣工式には同窓会より生花でお祝い



大教室



コンピュータ室



図書室



学生ホール



(付録)

平成 23 年 3 月 8 日

個人情報の取り扱いについて

東京交通短期大学同窓会

東京交通短期大学同窓会（以下「同窓会」という）は、「個人情報の保護に関する法律」が施行されたことに伴い、個人情報保護の重要性に鑑み、同窓会活動を行うにあたり、以下の個人情報保護方針に基づき、個人情報を適法かつ適正に取得・利用・提供・管理し、もって同窓会の保有する個人情報の保護に努めます。

1. 同窓会は、個人情報の保護を定めた諸法令及びその他の規範を遵守し、個人情報の保護及び取り扱いに努めます。
2. 同窓会は適法かつ適正な手段によって個人情報を取得し、利用目的の達成に必要な範囲において、個人情報を利用し又は提供することに努めます。
3. 同窓会は、個人情報に関する個人の権利を尊重し、自己の個人情報について、訂正・削除・開示等の要請があった場合には、妥当な範囲、合理的な期間で速やかに対応することに努めます。
4. 同窓会は、個人情報を利用目的の達成に必要な範囲において、正確かつ最新の内容に保つように努めます。
5. 同窓会は、個人情報の漏洩、滅失又は毀損の防止、その他個人情報の安全管理のために、不正アクセス・コンピューターウィルス等に対する適切な情報セキュリティ対策を講じるなど、必要かつ適正に管理を行うことに努めます。
6. 同窓会は、個人情報に関する取り組みを、今後も組織的に継続して行い、その内容に改善を図ることに努めます。

以 上